

平成 30 年度地域連携研修に係る視察研修等で学んだことのまとめ

～ 村内小中学校で実践できること ～

猿払村立浅茅野小学校

今年度、弘前大学附属小学校、札幌幌南小学校、附属函館小学校、埼玉大学附属小学校の4校の研究大会を通して学んだことは次のとおりである。本校児童の実態を鑑み、適切な形式にした上で、各学級での共通化を図っていく。村内の小中学校でも、ここでまとめたことと同様の実践は行われているため、村内共通に押さえあい、統一した授業づくりを進めたい。

1 導入に関わって

導入に関わって最も重要視すべきことは、児童自身が課題意識をもち、解決への筋道をイメージできる(見通しをもてる)ことである。こうすることで児童は主体的に学習を進めることができる。そのために、以下のことを実践する。

- ・国語において、単元の1時間目に単元全体の学習計画を示し、最終的な目標を達成するためにどんな手順で学習を進めるか考える時間を確保する。
- ・算数において、**問題→課題**の順で提示する。問題を先に提示することで、その問題を解決するために考えるべきこと(手順)、疑問点などが明確になり、それが課題になる。また、課題は児童から出てくる言葉を利用する。
- ・どの教科でも既習事項を利用して学習を進めることを意識し、使えそうな既習事項を想起する時間を確保する。
- ・1単位時間において、授業後どんなことがわかっていればよいかを考える時間を確保する。

2 まとめ・振り返りに関わって

1単位時間(または1単元の最終時間の終末)において、まとめ、習熟、振り返りの時間を確保し、学習の定着と他教科とのつながりを深める。

- ・各教科のまとめに児童の言葉を利用することで、主体的な学習とその定着を図る。
- ・学んだことを今後どの場面で生かせるかを考える時間を確保し、教科を超えた学習のつながりを意識させる。
- ・道徳科では、振り返りとして全学年共通の『道徳学習カード』を活用する。自己評価の項目(学年など実態に応じて文言を調節する)と自由記述欄(感想など)を設け、学習を振り返り、生活に生かせるようにする。また、教師は評価にも活用する。

3 研修の記録に関わって

本校では、算数科の各1単位時間における『課題』と『まとめ』を記録し、次年度に生かすという研修活動を行なっている。今回の研修を受けて、上記の事項を**全学年共通化し研修を進める**ことで、担任が変わっても児童が混乱しない**基本的な学習スタイルを確立**することができる。今後実践の記録を積み重ね、検証・改善することで、本校児童の実態に合った授業を展開できると考える。